

日本文体論学会

第 118 回大会

プログラム

2022 年 6 月 25 日（土）

於 杏林大学井の頭キャンパス（Zoom によるオンライン配信有）

日本文体論学会

日本文体論学会会員の皆様

一向に収束の気配を見せることない新型コロナウイルス感染症が、わたしたちの生活に大きな変容をもたらしました。今年度も日本国内で開催される学会は対面での開催ではなく、オンライン形式で行われております。本学会も、昨年度はハイブリッド方式として会場からの特別講演、発表者は遠隔地から Zoom を利用した発表を行いました。会場でご参加頂いた会員の皆様、ご自宅や職場で参加頂いた皆様のおかげでスムーズな運営ができ、また、活発な議論が行われました。皆様方のお力添えがあったことで、これまで日本文体論協会、日本文体論学会と諸先輩方が築き上げてきた伝統を守ることができました。

日本文体論学会の 118 回大会の開催に向けて、理事の先生方や運営委員の先生方と何度も協議を繰り返してきました。昨年度と同様に Zoom を利用したリアルタイム・オンライン形式での開催をいたします。不慣れな会員の方々もいらっしゃる、ご不便をおかけしますが、インターネットに接続された PC にスピーカー、マイクがあればご参加できます。今回は研究発表に加え、桜美林大学の多々良直弘先生に「メディア報道のレトリック：新聞報道からデジタル時代のメディア報道まで」と題した特別講演を行った頂くことになりました。文体論の中心的課題の一つでもあるレトリックについて、興味深いお話を伺う機会となると思います。本来でしたら、研究発表、特別講演の後に懇親会を開催し、旧交を温める機会を持ちたかったのですが、残念ながら叶いませんでした。しかしながら、特別企画として「ざっくばらんに語り合える会」を設けてみました。テーマが設定されておりますが、お集まりいただきました皆様と、文体論研究について情報を交換したりできればと願っております。なお、会場校として杏林大学井の頭キャンパスでも参加可能としておりますが、感染状況に左右されますため、以下のご案内にあります、オンライン参加申込フォームにご入力いただき、Zoom のミーティング情報をお受け取りください。うまく QR コードが読み込めない場合は、学会ホームページの「大会案内」から情報をご確認頂ますようお願い申し上げます。

なお、総会もオンラインにて開催いたします。そのため、指定されている時間にアクセスしていただき、議決にご協力ください。理事の先生方に置かれましては、文書による理事会開催とさせていただきたく、別途ご連絡をさせていただきます。

2022 年 6 月 10 日

日本文体論学会
会長 倉林 秀男

日本文体論学会第 118 回大会

日時：2022 年 6 月 25 日（土）

会場：杏林大学井の頭キャンパス D105 教室（オンライン配信有り）

※オンラインで参加される場合、6 月 22 日（水）までに、事前申し込みを
お願いいたします。登録いただいたメールアドレスに、Zoom のミーティング
情報をお届けいたします。



○右の QR コードまたは[こちら](#)からお申し込みをお願いいたします。

10:00 受付

※オンライン参加の方は、お名前を日本語（漢字・ひらがな・カタカナ）で表示いただくことで、
受付に代えさせていただきます。

10:30 開会

開会のことば・会場校あいさつ

会長 倉林 秀男（杏林大学）

研究発表（発表時間 25 分、質疑応答 10 分）

司会：山田悠介（大東文化大学）

(1)10:40 高橋愛子（日本語：早稲田大学[院]）

「アニメの『笑い声』についての文体論的考察」

(2)11:15 桶谷潤（日本語：早稲田大学[院]）

「日本語の新聞社説と英語訳における接続表現の使用傾向—削除・追加の文脈的要因—」

12:10 総会

研究発表（発表時間 25 分、質疑応答 10 分）

司会：原田範行（慶應義塾大学）

(3)13:00 藤田郁（英語：大阪大学[院]）

「Tennyson の文体における語彙特徴に関する一考察：潜在的ディリクレ配分法を用いて」

(4)13:35 能勢卓（英語：福岡女学院大学）

「オニールの『限りなき命』の台詞の文体分析と人物像」

特別講演

14:30 多々良直弘先生（桜美林大学）

司会：八木橋宏勇（杏林大学）

「メディア報道のレトリック：新聞報道からデジタル時代のメディア報道まで」

15:50 閉会のことば

16:00 特別企画 —学会誌編集委員経験者と話してみよう—

—大学院の先にある仕事やキャリアをこっそり教えます—

【お知らせとお願い】

◎大会に関する問い合わせは【yagihashi@ks.kyorin-u.ac.jp】までメールでお願いいたします。

◎当日、キャンパス内の学食（F 棟 1 階）は営業しております。

◎総会も Zoom で参加いただくことができます。会員の方はご出席ください。

【学会事務局からの重要なお知らせ】

大会や学会誌投稿のご案内は、メールで配信しております。学会事務局にメールアドレスをお届けになられて
いらっしゃる方は、お手数をおかけして申し訳ございませんが、学会事務局 (buntairon-post@infotec.co.jp)
へ電子メールでご一報ください。件名は「メールアドレス登録」としていただけますと幸いです。

研究発表要旨

(1) 「アニメの『笑い声』についての文体論的考察」

高橋愛子（日本語：早稲田大学[院]）

アニメーションを題材に「アニメの文体」という新たな視点を見出すことを目的とし、「笑い声」の表現と機能を手掛かりに昭和から平成にかけての変化を考察する。

長寿アニメである『サザエさん』や『ドラえもん』、『クレヨンしんちゃん』、そしてシリーズ化されている『ガンダム』などを研究対象として、それぞれ初期の作品と近年の作品で出現する「笑い声」を登場人物ごとに数値化し、時代的变化やその特徴を分析する。

『サザエさん』の昭和期では「笑い声」の8割が「わはははは」などの「は系」であるのに対して、平成期では「うふふふふ」などの「ふ系」が約半数となり、「笑い声」の総出現数は昭和期から30%減少するなど変化が見られた。また昭和期のアニメでは敵の役どころに悪者の威圧感を表すような「Evil laugh」など、「笑い声」が登場人物の特徴付けとして用いられる傾向にあることが分かった。時代の変化がアニメ作品の在り方としての変化に繋がっていることが明らかになった。

「アニメ的」「アニメっぽい」とはどのような表現を表しているのか。また「笑い声」がアニメ作品にどのように機能しているのか。「アニメの文体」という視点からマルチモーダルに考察する。

(2) 「日本語の新聞社説と英語訳における接続表現の使用傾向—削除・追加の文脈的要因—」

桶谷潤（日本語：早稲田大学[院]）

本研究は、日本語の新聞社説とその英語訳における接続表現の文章中での機能の相違を明らかにすることを目的とする。

一般に英語訳では、順接型や添加型は削除されやすく、逆接型は削除されにくいとされ、その要因として接続表現の機能の強弱が指摘される。だが実際の英語訳では、逆接型の削除や添加型の追加があるなど、機能の強弱だけでは説明できない。削除・追加の現象を文脈展開の観点から分析することで、日・英語の接続表現が文章中に果たす機能の相違の一端が解明できると考える。

本研究では、社説とその英語訳に出現する接続表現について種類別に使用傾向を分析し、同じ内容の文章でありながら削除・追加の現象がどのような文脈条件で起こりやすいのか等の文脈的要因を考察する。その上で、接続表現が文章全体のどの部分をまとめながら文脈を展開させるのか、その展開方法の異なりを明らかにする。

分析の結果、接続表現の種類により使用傾向に特徴が見い出せ、文章の構成との関連も指摘できる。特に逆接型が追加される場合は、文章全体の主題を明示する等の文章全体との関わりの深い機能を有することなど、文脈展開上の機能の異なりを指摘する。

今後は、原文と英語訳における接続表現と段落構成との関連を考察する予定である。

(3) 「Tennyson の文体における語彙特徴に関する一考察：潜在的ディリクレ配分法を用いて」

藤田郁（英語：大阪大学[院]）

本研究は、ヴィクトリア朝の詩人 Alfred Tennyson の文体を、計量文体学の手法の一つ、トピックモデリング (Blei et al., 2003) を用いて分析し、その結果に質的考察を行うことでこれまでの Tennyson 研究とは異なる視点から、Tennyson の文体に関する新たな知見をもたらすことを目指すものである。

トピックモデリングは、テキストにおける複数の潜在的なトピック（何らかの意味的つながりを持ち得る語の集合）を発見する機械学習モデルである。トピックモデリングの最大の利点は、従来の計量文体学などで敬遠されてきた「意味の問題」にアプローチすることが可能になったことであるが、トピックモデリングを用いた韻文作品研究の例は未だ少なく、これまで多くなされてきた Tennyson の作品研究も例外ではない。

Tennyson の作品や文体研究では、他の作家からの引喩等を含め他の作家との類似点について多く論じられているほか、作品に現れる特定の語が象徴する概念等も重要なテーマとして扱われている。

本研究は語レベル、特に名詞・動詞・副詞・形容詞の内容語に焦点を当て、計量的手法から得られる客観的データの質的解釈を行う。それにより、従来の Tennyson 研究とは異なるアプローチで、Tennyson の作品の語彙に迫りたい。

(4) 「オニールの『限りなき命』の台詞の文体分析と人物像」

能勢卓（英語：福岡女学院大学）

ユージーン・オニールは、彼の実験演劇時代最後の『限りなき命』（1934年初演）において仮面と二重俳優の手法を使用することにより、主人公ジョン・ラヴィングという一個の人物を真理・信仰・生を求める素顔のジョンと懐疑・悪意・死を求める仮面のラヴィングに分裂させて舞台上に登場させた。『限りなき命』は物語の内容に関しては厳しい批判がなされた一方で(Clark 1947; Floyd 1985; Wainscott 1988)、この作品で導入された実験的演劇手法に関しては多くの研究者の関心を引き、特に仮面と二重俳優の手法の導入により登場人物の内面が巧みに描き出されている点や、素顔と仮面の乖離が鮮明に舞台上に描き出されている点は先行研究において評価されてきた (Tiusanen, 1968; Wainscott, 1988; Eisen, 1994)。『限りなき命』は文学的研究と演劇的研究において作品としての問題点や演劇手法に関して様々な議論がなされてきたのではあるが、登場人物が発話する台詞の文体に関してはこれまで十分な研究がなされてきたとは言い難い。そこで本発表において、『限りなき命』の台詞の語彙や文構造のデータを用いて、この分裂する主人公の台詞の言語的特徴を分析し、相反する個性を体現するジョンとラヴィングが発話する台詞にどのような言語的工夫がほどこされ、その結果両者の人物像の様々な側面がダイアローグの展開の中でどのように反映されているかに関して考察を加えていく。

Clark, Barrett H. *Eugene O'Neill: The Man and His Plays*. New York: Dover Publications, 1947.

Culpeper, Jonathan., Mick Short and Peter Verdonk, eds. *Exploring the Language of Drama: From Text to Context*. London: Routledge, 1998.

Eisen, Kurt. *The Inner Strength of Opposites: O'Neill's Novelistic Imagination*. Athens, GA: University of Georgia Press, 1994.

Floyd, Virginia. *The Plays of Eugene O'Neill: A New Assessment*. New York: Frederick Ungar, 1985.

Tiusanen, Timo. *O'Neill's Scenic Images*. Princeton: Princeton University Press, 1968.

Wainscott, Ronald H. *Staging O'Neill: The Experimental Years, 1920—1934*. New Haven: Yale University Press, 1988.

特別講演

「メディア報道のレトリック：新聞報道からデジタル時代のメディア報道まで」

多々良直弘先生（桜美林大学）

現代社会において、インターネットなどの情報技術の発展が個人間のコミュニケーション方法を変化させただけでなく、ジャーナリズムやメディア報道を激変させたことは疑いの余地がない。ここではこの情報技術革命により激変するメディア報道の現状を概観した後、実況中継や新聞報道、インターネットを通じたスポーツ報道の文体を分析していく。メディア・スポーツ報道において観察される各言語の好まれる表現方法やスタイル、実況中継における言語表現の定型性、言語化される対象の差異などを分析し、なぜそのような差異が生じるのかという点を様々な事例をもとに考察する。

特別企画

—学会誌編集委員経験者と話してみよう—

—大学院の先にある仕事やキャリアをこっそり教えます—

日本文体論学会には、様々な背景を持つ大学院生や研究者が集っております。大学院生の方、新規入会された方、各研究分野の最前線で活躍されている先生方、長く日本文体論学会の発展にご尽力くださった経験豊富な先生方が、ざっくばらんに交流する場を設けますので、もしよければ1時間ほどお話しませんか？

トピックは自由で構わないと思いますが、話のきっかけとして、若い研究者の方向けに以下2つのテーマをご用意いたしました。

○「**学会誌編集委員経験者と話してみよう**」

学会誌の査読のルールを、明かせる範囲で明かし、本学会誌ほか様々な学術誌に投稿する心理的距離を縮めるきっかけとなればと思います。

○「**大学院の先にある仕事やキャリアをこっそり教えます**」

大学非常勤講師や専任教員の採用、大学院生に知っておいてほしい大学教員の姿やキャリアパスについて、今後の学会活動の参考にもしてほしい情報をお伝えできたらと思います。

会場参加者向け 杏林大学 井の頭キャンパスへのアクセス方法

(最寄り駅は、中央線・総武線「三鷹駅」「吉祥寺駅」、京王井の頭線「吉祥寺駅」です。)

- **三鷹駅** (JR 中央線・総武線) の南口バス乗り場 (8 番) より「杏林大学井の頭キャンパス」行 (約 15 分)
- **吉祥寺駅** (JR 中央線・総武線・京王井の頭線) の南口バス乗り場より
 - バス乗り場 (5 番) 杏林大学井の頭キャンパス行 (約 15 分)
 - バス乗り場 (2 番) 千歳烏山駅北口行〈新川経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (3 番) 大沢行「新川」下車 (約 9 分)、武蔵境駅南口行〈大沢経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (4 番) 調布駅北口行〈神代植物公園前経由〉「新川」下車 (約 9 分)
 - バス乗り場 (6 番) 深大寺行「新川」下車 (約 9 分)、野ヶ谷行「新川」下車 (約 9 分)
調布駅北口行〈野ヶ谷経由〉「新川」下車 (約 9 分)

※「杏林大学井の頭キャンパス」行に乗車の場合、終点で下車ください。キャンパス中央にある神殿のような建物に向かって左側、3つ並んでいる棟の一番奥がD棟です。

※「新川」で下車する場合、左手に少し戻ると正門があります。キャンパス中央にある神殿のような建物に向かって右側、3つ並んでいる棟の一番手前がD棟です。

杏林大学 井の頭キャンパスマップ



日本文体論学会 事務局

〒206-0033

東京都多摩市落合 2-6-1 (株) インフォテック内

電話 : 042-311-3355 Fax : 042-311-3356 E-mail : buntairon-post@infotec.co.jp